



Evangelism
Explosion
Japan

一般社団法人 EE JAPAN 季刊誌 (年3回/4月・8月・12月発行)

2026

8

Vol.16

行きて伝えよ

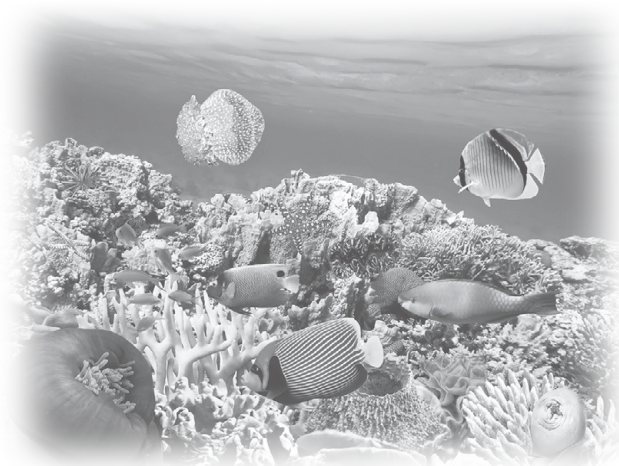
信徒伝道者の発掘・育成・増殖のために



私がEEを 愛している理由

上野 ミカ

RCI南大阪福音教会所属
プレスト株式会社代表取締役
EE Japan 理事



1. リバイバルに備える必要があるからです

私はある時、母教会である南大阪福音教会の福野正和牧師が、「私が生きている間にリバイバルが来る」と、本当に熱く強く信じておられることを知りました。「じゃあ、私もそのとき生きてるやん! えー! やば!」(関西弁で失礼します)という気持ちになりました。それまでも「リバイバルが来ますように」と祈っていました。しかし、心のどこかでは「まあ、いつか来るかもね」くらいの気持ちだったのだと思います。でも、この言葉を聞いたときから、自分の生温い気持ちが一気に引き締まりました。

そして次に思ったのは、「もし本当にリバイバルが起こったら、多くの人々が教会に押し寄せることになる。それは同時に、たくさんのベビークリスチャンを育てなアカンことになる!」ということでした。現在、日本のクリスチャン人口は1%以下と言われています。ですから、今いるクリスチャンが総動員したとしても、ひとりが100人近くの人を育てなければならぬとしたら、本当に大変なことです!その課題を解決するために必要なのが、EEだと私は本気で思っています。だからこそ、出会うクリスチャンの方々に、私はEEの素晴らしさを熱くお伝えしたくなるのです。

2. EE のプログラムの素晴らしさに 惚れ込んだからです

私は2015年6月にEEを受講し、同年9月には指導者クラスを受講しました。そして、すぐにEEを教え始めました。きっかけは、信頼している先輩姉妹のMさんと、あるグローバルな集会で久しぶりにお会いした際

に、「個人伝道のクラスがスタートするので、ぜひ受講をお勧めします」と声を掛けていただいたことでした。私はもともと伝道が好きで、楽しんでいました。でも、どこかで「何かが足りないなあ〜」と感じていました。さらに、以前からママ友のSさんに、EEのOJT(実地訓練)について素晴らしい証しを聞いていたこともあり、迷うことなく受講を決心しました。その後、すぐにIさんという一緒に学ぶ友も与えられ、自宅から片道1時間半、往復3時間の道のりを、予習や復習をしながら喜んで通いました。毎週、「早く次の講義が聞きたい!」と思うほど、ワクワクしながら通ったことを覚えていています。今では、ほとんどがZoomでの講義となり、以前のように遠くまで移動しなくても受講できるようになりました。そのおかげで、全国の方々とつながることができるようになったことも感謝しています。

EEは、アメリカで長い年月をかけて磨き上げられてきたプログラムだと聞いています。本当によく練られていて、聖書を知らない方にもしっかり届くように作られています。また、福音をお伝えする順番も、とても分かりやすく整理されています。さらに、EE Japanの代表である山中知義牧師が、ご自身で翻訳されたことで、日本人にも伝わりやすい内容になっています。日本人は、感情だけではなく、頭でもしっかり理解した上で福音を受け取りたいと思う方が多いように、私は感じます。だからこそ、EEは日本人にぴったりのプログラムだと思っています。実際に、EEの福音プレゼンテーションを聞いてくださった方々から、「今までいろいろな方から福音を聞いたけど、一番分かりやす

かった!」「しっかり福音が理解できたので、洗礼を受けたいです!」と言っていたことがあります。また、受講生の中には、EEの教材で福音の基礎を学んでいるときに、「私、救われてなかったと思う。一緒に祈ってください!」と、正直に打ち明けてくださった方もおられました。

さらにEEには、「倍増殖」という、本当に素晴らしい「仕組み」があります。ある年のクリスマスのことです。教会へ来られたMさんは、私が語ったEEの福音プレゼンテーションを通して、その日に救われました。そして、その後間もなく洗礼を受けられました。心が燃えているMさんは、「私も福音を伝えたい!」という思いでEEを受講されました。そのMさんを指導したのは私ではなく、以前私が指導し、指導者ライセンスを取得されたHさんでした。その後、Mさんも指導者ライセンスを取得されました。このように、私の教え子が教え、そのまた教え子が教え……と、私の手を離れたところでも、福音を伝え、教える人が増え続けています。EEは、「弟子を作る弟子を作る」ことを目標として掲げています。これが、まさにEEのいう「倍増殖」の仕組みです。そんな素晴らしい御業を、神様は今、全国各地で起こしてくださっています。

私はこれまで、約70名の方々にEEを指導し、OJT(実地訓練)のコーチとしても、多くのOJTに関わらせていただきました。私は神学校を卒業していません。それでも、これまで約20名の牧師、伝道師、神学校卒業生の方々にも指導する機会を、主から与えていただきました。第一コリント8章1節には、「知識は人を高ぶらせ、愛は人を育てる」とあります。神様は、主の愛によって人を育てることを、私たちにさせてください。そして、弱い者を用いて、主の御力によって御計画を成し遂げてくださいます。EEのテキストがあれば、誰でもEEを教えることができるプログラム内容になっています。ですから、どうか主から示された方は、すべてを主にお委ねして、勇気を持ってEEの学びに、そして、ご自身の教会で自ら教えるための指導者ライセンスクラスに、一歩踏み出してみてください。

3. OJT(実地訓練)を通して、本当に多くの方々が救われるのを見てきたからです

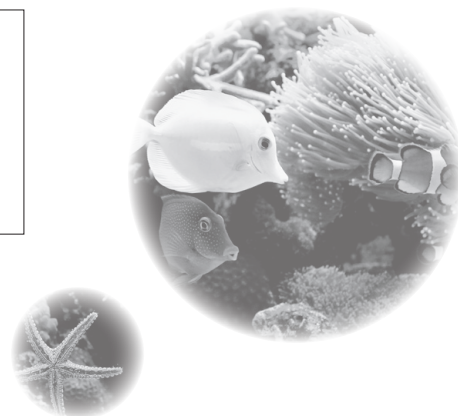
OJTとは「On-The-Job Training」の略で、実際の伝道現場で、福音の伝え方を学ぶ実地訓練のことです。EEを卒業するには、テキストの学びに加えて、5回以上のOJTを経験する必要があります。つまり、座学で学びながら、実際の伝道現場で実践するということです。これは、自転車に乗ることによく似ています。「ハンドルを持って、ペダルをこいで、ブレーキはここです」と説明を聞くだけでは、誰

も自転車に乗れるようにはなりません。実際に乗ってみて、後ろを支えてもらい、少しずつ手を離してもらって、初めて一人で乗れるようになります。OJTも同じです。最初は必ずOJTコーチと一緒に伴走します。そうして少しずつ自立することを助けます。その経験の積み重ねによって、受講生は福音を大胆に伝えられる「戦士」へと成長していきます。

暗記が苦手な方でも、日本語が難しい外国の方でも、80歳を超えた方でも卒業されています。ですから、どうぞ安心して受講してください。そして、たった5回のOJTですが、その中で、人が救われる瞬間を実際に目の前で体験することになるかもしれません。それは、本当に大きな感動です。特に、ずっと祈ってきたお父さん、お母さん、ご兄弟、おじいちゃん、おばあちゃん、親友など、身近な方が救われ、受講生が涙ながらに喜ぶ姿を見るたびに、私は神様への大きな感謝で心がいっぱいになります。

私はこれまで、EEの福音プレゼンテーションを通して、個人的に159名の方々に福音をお伝えしました。そのうち128名の方々が、イエス様を自分の救い主として受け入れてくださいました。EEを学ぶ前から伝道することは大好きだったのですが、イエス様を心に受け入れてくださる方は、本当にわずかでした。今振り返ると、福音を伝えるための備えが不十分だったのだと思います。しかし、その準備が整ったとき、神様は私に、福音を伝えるべき対象者を次々と与えてくださるようになったのだと感じています。

エゼキエル書2章1節には、「人の子よ、自分の足で立て。わたしがあなたに語る」とあります。私たちは、エゼキエルのように、「到底、自分には完遂できない」と思えることを、主からするように求められていると感じることがあります。でも、主は私たちに、しっかりと語ってくださいます。まず立ち上がり、みことばを受け取り、応答することから始めてみませんか。あなたにも、福音をお伝えしたい人がいると思います。ぜひ一緒に、「お伝えする人」、そしてさらに、「お伝えする人を育てる人」になりましょう。あなたの今日の決心が、実際の一步につながりますように。そして、このQRコードが用いられ、福音を伝える者として立ち上がっていかれることを、心からお祈りしています。



証し Testimony



～卒業生・在校生からの生きた証しをご紹介します～

永田 信昭（日本長老教会おゆみ野キリスト教会 土気チャペル 担当牧師）

私はEEの学びを通して、クリスチャンではない方にどのように福音をお分かちしたら良いか、学ばせていただきました。多くのたとえ話を交えながらの学びを通して、私自身がもう一度改めて福音を受け取る機会になりました。また自分自身の神様との関係を、もう一度見つめ直す時となりました。感謝です。

普段私たちの教会では地域の方々に向けて英会話クラスなどを行なって、聖書の話をしていただく機会が毎週たくさんあります。

しかしどうしても一方的な話になりますし、一人一人の応答を個人的に伺う機会ほとんどありませんでした。しかしEEの学びを通して、一人一人に声をかけ、個人的な応答について伺うことができたのは、非常に有益なことでした。その結果ある人とは継続的な聖書の学びに入ることができるようになりましたし、ある人はイエス様を信じて洗礼準備クラスに入ることになりました。

もちろん今は必要としていない、という方もいらっしゃる

て、少し気まづくなることもありましたが、それでも個人的にイエス様についての問いかけをすることができたことは恵みでした。

まだまだ教会に来てくださっている未信者の方々は勢いいらっしゃると思いますので、機会をみてお誘いしたいと思っています。これは教会の活性化にもつながっていくことになることでしょう。

EEを学ぶなら、未信者の方にも、また信仰的に難しさを覚える信者の方にも、福音を提供できるようになります。日本においてクリスチャンの方は、多くの未信者の方との接触があります。クリスチャンがイエス様を証しすることに取り組むことができるために、EEは非常に有益な学びだと思います。家族、友人、職場、近所の人の救いのため、この学びに取り組まれることをお勧めします。

「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫の主へ、ご自分の収穫のために働き手を送ってくださるよう祈りなさい。」 マタイ 9:37-38

田原 ちかよ（日本長老教会 鈴鹿キリスト教会信徒）

真実な神様のご愛を受けて

人生への希望もなく喘いでいた10代最後の年に、私は「聖書」と出会わせて頂きました。その20年後、今から34年前に、洗礼の恵みにあずかりました。神様の恵みにより、みことばに従って歩ませて頂き、祈りへの応答として数々の祝福を戴くことが出来ました。ですから、神様のご愛と真実を、周囲の方々に伝えたいとおられないと、心は燃えており、今までに、何百名もの会おう方々に、神様がいかに真実であられ、私に善きことをしてくださったかと、お伝えしてきました。また、私は、フランチャイズの塾を経営していることもあり、これまでに5千人を超える生徒さんや保護者の方々に「授業」や「降誕劇」などを通し、イエス様を語る機会が与えられてきました。しかし、その伝道の思いは、形としての実を中々結ばず、2名の方のみが洗礼の祝福にあずからただけでした（主の約束通り、夫を除く家族は皆救われましたが）。こんな日々を経て、私はイエス様の真実をお伝えすることの何と難しいことかと実感していました。

いよいよ70代に入り、人生も終盤に差し掛かった頃、私は「何としても福音を伝えたい」という気持ちの益々強くなるのを感じていました。そこで、キリスト教関連の本を読み、神学校の聴講生として学びを始め、思いつく限りのことを試みました。ところが、塾の仕事、96歳の父の介護、家族へのサポート等、一日のルーティンが煩雑で忙しすぎて、集中して学びをしようにも、その道は険しく、気力的にも体力的にも、限界を感じていました。そのような時、偶然「鈴鹿キリスト教会」において頂いた、山中先生ご夫妻を通して、「EE」の学びについて教えて戴く機会を得ました。何という粋な計らいをしてくださる神様でしょうか。私はこの学びを通して、自分がこれまで伝道だと思っていたことが、いかに偏った「神様の一側面」のみを語るものであったかを

気付かされました。まさに「神様が私の脳天から、神様がお住まいになっている心の一番深い所を刺し通して、深い学びを下さった」と思いました。伝道することや神様のご真実をお伝えすることは、情熱だけで、み言葉を語ったり、自身の喜びを語るだけではなく、そこには「構造的な説明」と、自身がイエス様の似姿へと、日々清められていく、聖霊様による働きが必要と学ばせて頂きました。学びのある日のことでした。教会に20年以上通いながら、「生長の家」という新興宗教でも学びを続けておられる方と話す機会が与えられました。聖霊様は、「EEで学んでいることを話さない」と言われました。私には、「まだ早いのでは？」という気持ちがあり、ためらいましたが、彼女自身が「私にとって、神様とはどういう方なのか」という話を始められました。まさに、EEの診断クエスチョンの答えを自ら語り始められたのです。私は、これは間違いなく聖霊様が語るための機会を与えて下さっていると思いました。「恵み・人間・神様・イエス様」を語るうちに、「これは私の言葉ではない、神様が語らせてくださっている」と実感しました。そのような気持ちで話を終え、イエス様のことをお伝え出来たことを感謝して祈りました。翌日、彼女は、牧師先生の所に走り込み、「今まで、ずっとクリスチャンになりたいと思っていました。田原さんに昨日背中を押されて、時期が来たと思います！」と申し出られたそうです。彼女は、牧師先生との学びの後、12月クリスマス前に、洗礼をお受けになりました。その後も私は、次々と聖書の話を知りたいと言われる方々と出会わせて頂いています。何という恵み！何という祝福でしょう！EE Japanの学びに導いてくださった神様と、それを立ち上げて下さった山中先生ご夫妻やスタッフの皆様へ、心から敬意と感謝を表します。益々この働きが用いられ、神様のご栄光が輝き出るようとお祈り申し上げます。（2025年12月）

コラム
Column

「神を喜ばせる人生」

EE創設者 D・ジェームズ・ケネディ博士

キリスト教とは、信じるべき信条であると同時に、生きるべき「人生」です。私たちが信じているのは、無償の恵みの福音です。神は、金も代価もなしに、決して受けるに値しないはずの高価なものを無償で受け取るようにと、私たちを招いておられます。つまり救いは信仰のみによります。ただし、誤解しないでください。私たちが救うその信仰は、必ず善い行いを生み出す信仰なのです。「信仰プラス行い」によって救われるという意味ではありません。善行は救いの根源ではなく、その「実」なのです。もしあなたがクリスチャンなら、あなたは王子であり、王女です。「王の王」の家に生まれた神の子です。そしてあなたは、「では、どうすれば王に喜ばれる王族として生きられるだろうか」と問うはずです。

ここで、二つの誤りに警戒しなければなりません。一つは「律法主義」です。信仰生活を「すべきこと・してはならないこと」のリストと捉え、守れている（と思う）ときは高慢になり、守れていないときには絶望する生き方です。もう一つは「反律法主義」です。何年か前、友人の車に乗っていたとき、彼は赤信号を突っ切って言いました。「主に感謝！俺たちはもう律法の下にはいないからな！」しかしパウロは断言しています。「それでは、私たちは信仰によって律法を無効にすることになるのでしょうか。決してそんなことはありません。むしろ、律法を確立することになります。」（ローマ3章31節）。

では、律法主義にも、反律法主義にも陥らずに、神の律法に生きるとは、どういうことでしょうか。新車には取扱説明書が付いています。それは運転者を縛るためではなく、その車の持つ性能と自由を存分に引き出すために書かれたものです。「こんな『すべきこと・してはいけないこと』のリストにはうんざりだ」と説明書を捨て、オイルを補充しない人は、やがて人里離れた道でエンジンを焼き付かせ、立ち往生してしまうでしょう。ある日、小さな看板が私の目を引きました。「全力を尽くしてもダメなときは、取扱説明書を読んでください」。ユーモラスですが、実にその通りです。人生をどう使えば良いのか。その答えが全て自分にあると思い込み、神の取扱説明書を読まずに悲惨な道を歩んできた人が、どれほど多いことでしょうか。神の律法も同じです。それは愛なる父

が下さった「人生の取扱説明書」であり、私たちを自由に生かすためのものなのです。

でも、キリスト教は規則を守ること以上のものです。何よりもまず、人格的な関係です。私たちは「人を再び恐怖に陥れる、奴隷の霊を受けたのではなく、子とする御霊を受けたのです。この御霊によって、私たちは「アバ、父」と叫びます。」（ローマ8章15節）。「アバ」とはアラム語で、親しみを込めた「パパ」にあたる言葉です。幼い娘が私を「ジム」と名前呼び始めたときのことです。私は娘を膝に乗せて、こう言いました。「私を『ジム』と呼べる人は、世界中に何千人もいるよ。でもね、私を『パパ』と呼べるのは、この世で君ひとりだけなんだよ」。この父は、私たちを「追い立てる」のではなく、「導いて」くださいます。ご存知のように、羊飼いに従わない動物がいます。山羊です。羊は従いますが、山羊は追い立てられなければなりません。キリストがその教えと模範によってあなたを導こうとされるとき、あなたは喜んで従っていますか。それとも、杖や鞭で追い立てられなければ動かないのでしょうか。私たちはよそ見ばかりしていないで、先頭に立って導いてくださる羊飼いに目を向けましょう。「わたしの羊はわたしの声を聞き分けます。…彼らはわたしについて来ます」（ヨハネ10章27節）。

神が喜ばれるのは、奴隷の不本意な労働ではありません。不承不承の奉仕ではありません。子どもが大好きなパパにするように、自発的で喜びにあふれた従順です。神は、私たちの「どれだけやらなければならないか」という自問よりも、「どれだけさせてもらえるだろうか」という自問を喜ばれます。神が私たちを喜んでくださるように、私たちもまた神を喜ばせて歩もうではありませんか。

【出典】D・ジェームズ・ケネディ 著 *Delighting God* (Servant Publications, 1993年)「はじめに」より抄訳・編集。



伝道

デン
ミチ

「十年後の景色」

EE Japan 代表 山中 知義

もしあなたが、「個人伝道のできる信徒を年間最低一人育てる」ことを目標に、EEの訓練、特にOJTを忍耐強く続けたとしましょう。そして、それを10年間継続したとします。

初年度の伝道者はあなた一人です。しかし翌年には二人になります。その二人が同じことを続ければ、次の年には4人になります。このように毎年一人ずつ育て続けることができれば、単純計算では10年後には512人の伝道者が生まれることになります。

もちろん、現実はこのような計算どおりには進みません。あなたは受講者を選ぶことができませんし、大きく成長する人もいれば、途中で離れてしまう人もいます。教会環境や地域性など、さまざまな要因も結果に影響します。それでも、この働きを続けた10年間と、続けなかった10年間との間には、大きな差が生まれることでしょう。

仮に結果がその1%に留まったとしましょう。それでもあなたは10年後、少なくとも「5人」の献身的で、情熱にあふれた個人伝道のできるキリストの弟子を残すことになります。これまでの経験上、このような人々は高い確率で、献身者になられます。

与えられた召しと賜物によって形は様々でしょうが、多くが献身者になられます。あなたが始め、10年間諦めずに導き続けた「伝道のできる弟子養育」と

いう働きを通して、トータルで何人くらいの人が福音を聞き、キリストをお信じになることでしょうか。相当の数にのぼるはずです。

しかし、この「5人」という数字に比べれば、それはあまり重要な数字ではありません。イエス様の命令は、「行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい」(マタイ28章19節)だからです。だからEEの授業では、このように指導しています。

「伝道対象者の表面的反応だけを見て、自分の伝道と弟子養育の効果を判断してはいけません。伝道と弟子養育の効果は、対象者から『霊的孫』が生まれてくるかで判断すべきです。キリストの弟子とは、霊的活力に満ち、健全に機能しつつ、成熟と再生産を果たし続ける、キリストに従う者であり、その御体を構成する者のことを言います。」(EE13週クリニック・P.99)

一人でできることは限られています。しかし、あなたは一人ではありません。まず、イエス様があなたと共におられます。聖霊様があなたと共におられます。そして、あなたが誰かに育ててもらったように、あなたも誰かを育てるならば、あなたは心強い同労者を得ることになります。そしてもし、その同労者も、あなたと同じ生き方をするならば…。そしてその連鎖が続くならば…。始まりは一人でも、あなたは「一人で千人を追うことができる。あなたがたの神、主ご自身が、あなたがたに約束したとおり、あなたがたのために戦われるからである。」(ヨシュア記23章10節)

「一年に一弟子」は決して高いハードルではありません。それでいて、結ぶ実は絶大です。もしあなたが忍耐強く、これを続けるならば、あなたの見る10年後の景色は、全く違ったものになっていることでしょう。EE Japanは、皆さんが定めた目標を達成できるように、様々なサポートを行っています。OJTコーチはいつでも駆けつけます。皆さんが、実を結ぶだけでなく、その「実が残る」(ヨハネ15章16節)ために、EE Japanはこれからも皆様と地域教会にお仕えして参ります。



Information インフォメーション

①【重要】2026 年秋期オンライン 13 週クリニック

2026 年 8 月 31 日 (月) 開講予定!

8 月 31 日のクラスは「導入／オリエンテーション」ですので、EE の働きやトレーニングに関心のある方は、この日のみ、無料でご参加いただけます。ZOOM アドレスなど詳しい情報は、EE Japan のホームページ (eejapan.com) をご覧ください。Email でもお問い合わせを受け付けております。info@eejapan.com

② OJT ボランティア募集中!

OJT とは、受講生が実際に福音を伝えるための実地訓練です。現在、受講生の練習のために、「聞くお相手」になってくださるボランティアを募集しています。特別な知識や経験は必要ありません。「伝道者の卵たち」を育てるための大変有益な働きです。ぜひご協力をお願い致します。お申し込みは、ホームページ、又は、右記の QR コードからお願いいたします。



③ 毎週水曜日 20:30 ~ EE の祈り会【Zoom】

EE ジャパン理事長・高橋裕子師が引導する Zoom 祈り会を行っています。EE の働き、関連教会、日本のリバイバル、世界の平和、そして救いを必要としている方々のためにとりなし祈っています。どなたでもご参加いただけます。ぜひ、一緒に祈りください。

《Zoom ミーティング情報》

ミーティング ID : 883 9235 5160

パスコード : 771672



④ ご存じでしたか?

EE Japan のホームページでは、クレジットカードをご利用いただけます! 各種トレーニングの受講費のお支払い、テキストや書籍の購入、EE Japan への献金のためにぜひご活用ください。EE Japan のホームページ (eejapan.com) から「支払・献金」をクリックして下さい。

発行: EE Japan

代表者: 山中知義 編集責任者: 山中智子 (編集長)
理事長: 高橋裕子 単立京都国際ショナルチャーチ主任牧師
理事: 出立哲也 日本長老教会おゆみのキリスト教会牧師
理事: Matthew Cummings WEC 宣教師
理事: 上野ミカ RCI 南大阪福音教会教会員

発行日: 2026 年 8 月 15 日 (夏号) / 発行頻度: 季刊 (春号・夏号・冬号)

〈編集・発行所〉EE Japan 事務局

〒616-8163 京都市右京区太秦西峰岡町 27-10 TEL.090-2038-1634

E-mail: info@eejapan.org / ホームページ: www.eejapan.com

印刷・製本・レイアウト: (宗) ニューライフ・ミニストリーズ 新生宣教会

〈献金振込先〉

- 銀行名: 京都銀行 帷子ノ辻 (カタビラノツジ) 支店
口座番号: 普通 3699909
名義: 一般社団法人エバンゲリズムエクスプロージョンジャパン
- 銀行名: ゆうちょ銀行
振替口座 00960-8-195432
名義: 日本爆発伝道協会
(同封の用紙をお使いください。手数料は無料です)

報告

① Messiah Mission Int'l. Ministry (フィリピン人教会)

4 月 12 日、神戸にあるフィリピン人教会、MMIM 教会において、EE フィリピン主催のクリニック修了式がありました。コロナ



の時期に、牧者を亡くされた痛みのある教会が、伝道の情熱に溢れている姿に、大きな励ましを受けました。当日、一人の日本人女性がイエス様をお信じになられたことも大きな喜びでした。心から感謝します。

② Tokyo Living Water Christian Church,

Singapore S-Word Evangelical Free Church

5 月 5 日、東京江東区にある中国人教会において、2 名の指導者が EE 指導者コースを修了されました。このように、日本にある外国人教会においても EE が力強く用いられ、福音宣教の働きが拡大していることを感謝します。

③ 岡山県倉敷市にある

ファミリーチャーチ広江チャペル (日本聖約キリスト教団) に於いて、「個人伝道ワークショップ」が 6 月 13 日・14 日に開催されました。これは EE のメイン訓練ツールである「13 週クリニック」のミニバージョンです。参加された皆様は非常に熱心に学ばれ、福音を伝えることへの思いを新たにされました。ワークショップの最後には実際に訪問アポを取り、福音を分かち合う機会を持つことができました。今後も、一人でも多くの方が福音を大胆に語る者として遣わされていくことを期待しています。



④ 7 月 12 日 (日) は EE を

通して、力強く伝道と弟子養育に励んでおられる方々を、神戸バイブルフェローシップ教会に訪問しました。主任牧師先生からも大変力強い励ましを頂き感謝します。EE の目的声明文は以下の通りです。「世界中の教会の中で、また教会を通して、信徒が増殖するよう個人伝道訓練を提供することにより、神様の栄光を現します」神戸バイブルフェローシップに益々の祝福があるように祈ります。

